
リリカル：ギャラクシー 大怪獣バトルA, S

パトス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカル：ギャラクシー 大怪獣バトルA's

【Nコード】

N4317I

【作者名】

パトス

【あらすじ】

突如現れたブラックホールに吸い込まれ、ZAPクルーが辿り着いたのは、魔法が存在する世界だった。

プロローグ(前書き)

この話は、ZAPクルーがレイブラッド星人を倒し、地球に帰還しようとした直後の話です。

プロローグ

ヒュウガ「・・・さあ、今度こそ地球に帰ろう！」

おおー！！

宇宙船スペースペンドラゴン船内に、ZAPクルーの声が響きわたった。

しかし、喜びも束の間だった。突如船内に赤いランプが光り、サイレンが鳴ったのだ。

ヒュウガ「どうした！」

ハルナ「こ、高次元エネルギーが展開されました！ペンドラゴンが引き寄せられています！！」

ヒュウガ「なにっ!?!」

レイ「まさか・・・レイブラッドか!?!」

レイは眉間にしわを寄せて言った。しかし、レイブラッドは先程惑星ハマーで、ウルトラマンとセブンの力を借り、確に倒した。

オキ「あ、あれは!?!」

オキは、ペンドラゴンの前方を指差した。そこには、全てを飲み込んでしまいそうな漆黒の闇が、ブラックホールこちらを向いて口を開いていた。その時である。

『レイモン・・・レイモン!』

レイ「レイブラッドか!？」

『まだ終りでは・・・無いぞおおお!!』

レイブラッドの音が轟き、その瞬間、ペンドラゴンは大きく揺れ、軌道がブラックホールに向けられる。

クマノ「駄目です!振り切れません!!」

ヒュウガ「掴まれッ!!」

レイ「う、あああああああ!!」

スペースペンドラゴンは、完全にブラックホールに飲み込まれた・・・。

レイ「・・・ここは・・・何処だ・・・?」

頭がガンガンする。まるで盥たらいで頭を殴られた様な感覚だ。レイは目

クロノ「時空管理局執務官、クロノ・ハラオウンだ。そして、ここは艦船アースラ。」

レイ「アースラ？管理局？」

レイは、自分の知らないワードを付きつけられ、少し混乱した。それを見かねたのか、クロノと名乗る少年が口を開いた。

クロノ「大丈夫、君に危害は加えないよ。それより、少し話を聞かせてくれないかな？」

レイ「その前に、聞きたいことがある。」

レイの鋭い目付きがクロノを捕える。クロノは少し顔を引きつらせながら「なんだい？」と答えた。

レイ「時空管理局というのは、ZAPスペーシーの何かなのか？」

ZAPスペーシーとは、レイやヒュウガを含むZAPクルーが所属する組織の事だ。しかし……。

クロノ「……残念だが、僕が知る中では、ZAPスペーシーという言葉は聞いたことは無い。」

レイ「そうか……。」

クロノ「他に質問が無いなら、こちらから質問させて貰う。」

レイ「ああ……。」

レイはクロノの質問に答え始めた。

同時刻

? 「闇の書の軌道、確認しました。」

? 「我ら闇の書の蒐収を行い、主を守る守護騎士でございます。」

? 「夜天の書の元に集いし雲。」

? 「ヴォルケンリッター。なんなりと命令を。」

・・・しかし、彼等が望む『主』の声は、一向に返ってこない。
すると、一人の赤い髪をした少女が立ち上がり、『主』に近付いた。

? 『なあ、ちよつとちよつと。』

? 『ヴィータちゃん！静かに！』

ヴィータ『でもさあ・・・。』

？『黙っている、主の前で無礼は許されん。』

ヴィータ『無礼ってかさア、コイツ・・・気絶してるように見える
んだけど。』

？「ええっ!？」

守護騎士達は、一斉に声を上げた。

s t a g e 1 それは静かな始まりなの！（前書き）

自分はりりカルなのはを余り見る機会が無かったモノで、おかしな部分があるかと思えます。その時は御指南お願いします。

stage 1 それは静かな始まりなの！

クロノ「まず、君の名前を教えてください。」

レイ「・・・レイ。」

クロノ「レイ。わかった。次に君の出身世界を教えてください。」

レイ「出身世界・・・？」

レイは首を傾げざるをえなかった。何故なら、出身世界が曖昧なのである。親がレイブラッドなので、レイブラッド星（あるかは不明）かもしれない、惑星ボリスと言ってもおかしくはない。だが、レイの中で何かが引つ掛かる。それは、自分の中での憧れ。レイは、その憧れに身を任せ、口を開いた。

レイ「・・・地球だ。」

クロノ「地球？なのはの居る場所じゃないか。」

レイ「なのは・・・？」

クロノ「・・・いや、何でもない。」

クロノは一瞬同様したそぶりを見せたが、質問に戻る。そして全ての質問に答えると、クロノは「ふうむ」と唸った。

クロノ「特に危険な力もなければ魔法も使えない。やはり時空漂流者か。」

レイ「時空漂流者？知らないが、俺は最初から此処にいたのか？」

クロノ「いや、文化レベル0の世界に君は倒れていたんだ。」

レイ「文化レベル・・・？」

先程から意味のわからないワードを聞かされ、レイは混乱していた。

クロノ「・・・。」

一方クロノも処理に困っていた。こういうタイプの時空漂流者は、あまり前例が無いのだ。ここはやはり提督に指示を煽るべきか・・・その時、レイがクロノに顔を近付けて言った。

レイ「俺が倒れてい場所に、船は無かったか!？」

クロノ「ふ、船？」

クロノは顔を近づけられ、裏声を出してしまう。

クロノ「残念だが、船の様なモノは何も無かった。」

レイ「まさかみんな、レイブラッドに・・・!」

クロノ「レイ・・・ブラッド？」

クロノは首を傾げた。その時、レイはいきなり立ち上がってクロノの肩を掴み、訴えた。

レイ「俺のバトルナイザーは何処だ!」

クロノ「バトルナイザー？」

レイ「・・・そこをどけ！」

レイはクロノとは話が出来ないと判断すると、クロノが入室した電子ドアに向かう、が。

レイ「ッ！？」

突然、レイを光る縄の様なモノが縛りついた。

クロノ「逃がすわけには、行かない。」

レイ「これは・・・何だ？」

クロノ「魔法だよ。」

レイ「魔法？人間に魔法なんて力は無い！お前、宇宙人か！？」

クロノ「う、宇宙人？」

レイ「とぼけるな！さては俺のバトルナイザーを奪おうとするレイオニクスか！？」

クロノ「れ、レイオニクス？」

今度はクロノが混乱する番だった。宇宙人やらレイオニクスやら、知らないワードを叩き付けられたクロノは、なんとか冷静さを保とうとするが・・・。

レイ「うおおあああああああ！！！」

クロノ「バインドが！？そんな！！！」

レイは、クロノのバインドを破壊したのだ！流石にクロノも冷静さを保てず、同様している。この男からは、全く魔力を感じられない。なのに何故？

レイ「ハッ！！！」

さらにレイは、電子ドアが開かない事に気付くと、電子ドアを蹴破り、アースラの廊下に出た。クロノはすぐに船内に回線を繋ぐと、指示を出した。

クロノ「船内の魔導士に連絡！時空漂流者が脱走！見つけ次第拘束せよ！！！」

魔導士「居たぞ！捕まえる！！！」

レイを見つけた魔導士三人が、一斉に砲撃してくる。しかしレイはそれを全て避け、三人の腹に拳を叩き付けた。当然魔導士は倒れ、レイはその隙にバトルナイザーを探すべく、船内の部屋をくまなく探した。そして

レイ「見つけた！」

レイは、大きなカプセルに入っているバトルナイザーを見つけたのだ。

レイはカプセルを叩き割りバトルナイザーを確保すると、今度は脱出口を探した。幾度かドアを蹴破ると、大広間の様な場所に出た。その時。

?「はあああああ！」

レイ「ッ！」

突然何かがレイに向かって突進。レイは寸前で避けた。しかし、避けた場所に今度は光弾が発射され、レイは態勢を崩しながらも跳躍して避けた。

?「アンタが脱走者かい！」

レイ「貴様ら、何者だ!!！」

フェイト「時空監理局魔導士、フェイト・テスタロッサ。」
アルフ「あたしはフェイトの使い魔アルフ！」

フェイトと名乗った金髪の少女は、折れてしまいそうな程細い腕をし、戦いには無縁の顔をしているが、その腕の先には鎌が握られて

おり、簡単に通してくれる相手では無いという事は確かだった。もちろん、それは獣の耳を生やしたアルフという女性も同じ事だろう。

レイ「貴様ら、何故バトルナイザーを狙う!？」

アルフ「は?」

フェイト「バトルナイザー……?」

レイ「レイオニクスバトルは、惑星ハマーで終わったはずだ!……まさか、貴様らレイブラッドの差し金か!！」

フェイト「なんか、勝手に話が進んでる気がする……。」

レイ「言え!ペンドラゴンを何処にやった!！」

アルフ「そういう話はさ……捕まえてから聞くよ!」

アルフは高く跳躍し、右拳をレイに降り下ろす。レイは体をくねらせて避ける。しかし、またあの光弾が次々に発射された。

フェイト「撃ち抜け!ファイア!！」

フェイトの号令で、たくさん光弾がレイに向け発射される。レイは全てを避け切れず、光弾を胴体に喰らい吹き飛ばされた。

レイ「ぐああ……っ!！」

レイは壁に激突し砂煙が辺りを舞った。

フェイト「やりすぎた・・・かな。」

アルフ「上々だよフェイト」

フェイトとアルフが安堵した、その時。砂煙の中からレイが姿を現した！

アルフ「なっ！しぶといねえ！」

レイ「・・・！」

レイは懐から機械を取り出すと、それを天に掲げた。その機械の名は、バトルナイザー。

『バトルナイザー、モンスロード！』

バトルナイザーが光輝き、中から輝くカードが現れたと思ったのも束の間、カードから巨大な鳥が現れた！！

アルフ「なっ！？」

フェイト「・・・使い魔じゃない！召喚士！？」

『ピギヤアアアアア！』

原始怪鳥リトラ(S)

初登場作品

ウルトラQ

レイ「行け！リトラ！」

『ピギヤアアアア!』

リトラは口から火球を発射するが、決してフェイトとアルフを焼かずに辺りを焼いた。

アルフ「うわっ!?!」

フェイト「くっ……!」

レイ「よし、戻れリトラ!」

レイはリトラをバトルナイザーに戻すと、二人を撒くために走り出した。その瞬間!

レイ「なっ!?!」

レイの目の前に突然、あの時のブラックホールが出現。レイはそれに飲み込まれてしまった……。

『新たなレイオニクスバトルが始まるぞ・・・レイモン!!』

レイブラッドの音が、暗闇の空間に轟いた。

s t a g e 1 それは静かな始まりなの！（後書き）

戦闘シーンもつとつまく書けばよかった・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4317i/>

リリカル：ギャラクシー 大怪獣バトルA,s

2010年10月22日00時23分発行